県内産業 Information

価値をカタチにし、建築業界に貢献する 兼希工業

KANEKI
KANEKI KOGYO CO.,LTD.

会社概要

商　　号	兼希工業（株）
所 在 地	伊勢崎市日乃出町1038-38
電　　話	0270-30-5800
目　　的	住宅用木質パネル製造
代 表 者	細渕　敦 氏
設　　立	昭和24年10月
従 業 員	71名
年　　商	12億円（2021年9月期）
U R L	http://kaneki-k.co.jp/
企業コード	220009180
法人番号	1070001013209

職人不足の慢性化、後継者難、高齢化の進行など課題が多い建築業界。こうしたなか、工期短縮により職人不足をカバーできる住宅用木質パネルを開発し、2001年にその製造を本格化させた。当時住宅用木質パネルという概念は業界に殆ど浸透しておらず、商品化並びに普及には数々の苦心が伴った。しかし、在来木造住宅の外周部で使用する断熱材などの材料をあらかじめセットアップしたパネルは、性能の向上・均質化や工期短縮といったメリットが豊富で、現在は着実に浸透している。今回は住宅用パネルメーカーとして成長している兼希工業の３代目となる新社長、細渕敦氏に話を伺った。

精米精麦機の製造としてスタート

昭和24年８月に精米精麦機の製造販売として設立、その後石油コンロや計量米びつの製造、アルミサッシの加工・組立などを経て、50年にアルミダイカストの仕上げ加工を請け負い、60年には省力化機械の設計・製作を開始した。「コーンメジャー」は昭和33年に製造を開始した計量米びつで画期的な商品としてヒット。細渕社長がネットオークションで偶然見つけた「コーンメジャー」は即落札、歴史を感じさせるものであるが保存状態は良く、本社ロビーに展示されている。そのような当社であるが、転機となったのは社長の親戚が都内で経営する工務店からの打診であった。

住宅用木質パネルの開発・製造を開始

その工務店では、住宅建築省力化の実現のため壁パネルの開発を構想していた。そして、金属加工業主体だった当社に住宅用木質パネルの開発・製造を打診したのである。当社にとって木工である住宅用木質パネルの製造は全くの異業種であったため当初は二の足を踏んだが、検討に検討を重ねたうえ、参入を決意、これが現在の当社を形成する転機となり、更に細渕社長にとっても大きな転機となった。当時、細渕社長は他社に就職して半年程だったが、この決断によって急遽当社に呼び寄せられ、パネル開発を任されることとなった。商品化は苦労の連続であった。工務店からはラフ画によるイメージのみの提供だったため、それを形にするのは容易ではなかった。この間、工務店から大工を紹介され、短期間ながらも実際に赴いて現場作業を学んだ。そして、ラフ画と現場で学んだことを基に試行錯誤を繰り返し、製品化に漕ぎ着けた。

工期短縮と高品質化で親戚の工務店とともに成長

製品化に至った住宅用木質パネルはその工務店に本格採用され、パネルの製造に取り組む以前には4000万円程度に落ち込んでいた当社の年商も工務店の成長とともに着実に積み上がり、10億円を突破するに至った。



細渕社長


本社工場外観

住宅用木質パネルは耐力面材、間柱材・枠材、断熱材により構成され、自社工場で製造。フルオーダーメイド完全受注生産のため、現場ごと、サイズや材質の組み合わせは要望に応じて自由に選択して製品化することが可能である。また、工場生産のため、現場ではパネルをはめ込むだけで、「工期短縮、高品質化、工程管理の減少、作業スペースが不要、廃棄物の大幅削減」などメリットは多い。このため、大手住宅メーカーや住宅デベロッパー、建築業者など取引先も順次拡大している。

“在来工法の新しいカタチ”サッシ付き壁パネル「ネオスマートパネル構法」を開発

ここ最近では、高い品質と更なる省力化の実現のため、在来工法用サッシ付きパネル「ネオスマートパネル」を開発した。「ネオスマートパネル」は、従来の壁パネルにサッシを組み込んだ製品で、建て方工事と同時に施工することで、上棟と同時に外周回りの一次工事が完了する。これにより工期約11日間、10人工が削減される計算となる。また、大工仕事のなかで、負担の大きな「耐力面材」「サッシ施工」が省けるため、大工不足や高齢化問題の解決にも寄与する。加えて、パネルの平積みが可能で、配送効率も高く、運賃も削減できる。パネル生産については自社工場のみでなく、全国５カ所の工場と提携するなど供給体制の整備を進め、最終図面の受領から２週間で納品が可能となっている。

細渕社長は「当社は人の住まいに関わる仕事を行っており、住む人にとって最高の住環境を提供するため、製造業の立場として出来るサポートを行っていきたい」と語る。そして、叔父のアイデアのみでゼロから開発した製品が、現在の当社の基幹事業に成長したことが自信に繋がっており、それは「弊社の工場を御社の工場として使って欲しい」という言葉にも表れている。「経営理念は『優価値創造企業』（カチをカタチにする会社）で、『関わる全ての方々の満足を追求し、幸せの実現に貢献する』という使命を一番に心に刻み、多くの課題を抱える建築業界への貢献と社業発展のために尽くしたい」という細渕社長と当社の活躍に注目していきたい。



ネオスマートパネルの施工風景